令和元年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立十王中学校　　教諭　　小野　穣

１　派遣期日　　令和元年１１月５日（火）

２　研 修 先　　学校名（会場名）結城市立結城小学校

所在地　茨城県結城市結城１９２７

http://www.portal.city.yuki.ibaraki.jp/sp/page/page000005.html

３　研修内容

（１）視察校における研究への取り組み

研究主題：自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳性を養う道徳教育のあり方 ～各教科の道徳教育の重点目標に基づく道徳教育とその要となる道徳科の指導の工夫をとおして～

結城市立結城小学校では，新学習指導要領の実施に向けて，先行実施となった特別の教科「道徳」の校内研修を進め，国立教育政策研究所の教育課程研究指定校に指定されている。結城小学校は，９つの特別支援学級を含め，個別に配慮が必要な児童生徒が数多くいる。そのような現状の中で，結城小学校の組織目標である「児童が考え，認め合い，表現する場をつくる」を実現するためには，特別な配慮を要する児童を含めたすべての児童が，自立した人間として他者とよりよく生きていく必要がある。その基盤となる道徳性を養うために，研究主題のもと，先進的な道徳の授業を進めている。

○　研究の内容

①　本校の道徳教育全体計画の見直しを図る。

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた各教科の特質を生かした道徳教育の明確化
- 各教科で行う道徳教育と道徳科の目標の連鎖
- すべての児童に配慮した道徳教育の実践

②　道徳教育全体計画に沿った授業研究を実施する。

- 特別の教科「道徳」での実践
- 各教科での実践
- 特別活動での実践
- 通常の学級，特別支援学級，通級指導教室での道徳教育の実践
- 地域，家庭に広げる道徳教育の実践

③　実践を多面的・多角的に検証する。

- 実態調査結果の考察
- 道徳ノートや発言の内容分析

（２）視察校における授業の実際

第５学年　道徳科　主題名「真心のこもった挨拶」　内容項目Ｂ－（９）礼儀

この授業では「オーストラリアで学んだこと」という教材をもとに，時と場に応じた挨拶について，道徳的な実践意欲を育てていくことを目的としている。事前指導として日常生活で「登下校の挨拶」の指導，学級活動で「挨拶をもりあげよう」の指導を行っている。また，事後指導として校外学習「高齢者施設訪問」や日常生活「登下校の挨拶」を位置づけている。このような授業単位のみではなく，日常生活や特別活動，他教科などとの一貫性のある道徳こそが，新学習指導要領では求められる全教育活動で行われる道徳教育である。建前としての一貫性ではなく，この授業での主題が他の教育活動でも，主たる目標の一つに設定されうるという点が大変参考となった。

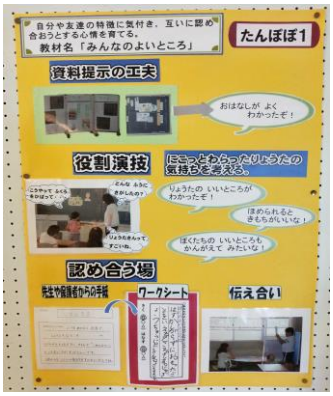
授業の冒頭では，挨拶についての意識調査を提示し，児童に説明をする場面があった。事前に持っている道徳的な価値の意識を児童１人１人が認識し，授業を行うことは大変有意義である。なぜならば，道徳科の基本的な性格として「生徒自らが成長を実感したり，…人間としての生き方について考えを深める」必要性がある。そのため児童生徒が，道徳的諸価値に対しどのような理解をしているのか知る，メタ認知が重要となってくる。意識調査を指導計画に使うだけではなく，児童生徒に還元することの必要性を，改めて実感することができた。

４　感　想

今回の研修で大きな収穫となったのは，配慮が必要な生徒への道徳の授業の必要性について考えることができた点だ。特別支援学級に通級している生徒は，道徳の授業を交流学級で行うことが多い。その場合，道徳的な価値に対する考えの相違や，そもそもの考え方や交流の仕方のスタンスの違いで苦しむ生徒も多いだろう。特別支援学級にて個々の発達状況に応じた道徳の授業を継続的に行うことで，配慮を要する生徒が交流学級での人間関係などを円滑にすることができる。また，これは交流学級に在籍する生徒たちにも有益なはずである。個々の発達状況に応じた道徳の授業について教師の理解が深まれば，生徒個々の抱える大小様々な問題を捉えやすくなるだろうし，問題に対するアプローチの手数も増加するはずだ。

また今回の研修では，文科省の教科調査官である浅見哲也先生のお話を伺うことができた。道徳の教科化の初年度であり，道徳の授業，評価などについて私自身の方向性が定まらないなかで，文科省からの立場として先生のお話を拝聴できたことは私にとって大きな助けとなった。道徳科の目標として，「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことが挙げられる。この方向性をぶれないように進めるためには，指導案のねらいや指導事項の文末の表現に一貫性を持たせて指導案を作成する指摘があった。また，教師の指導の明確な意図として，「子どもたちにとって，ためになり，新たな気付きや変容が生まれる道徳科の授業の実現」が必要であるというには，主体的で深い学びへの指針を見いだすことができた。

十王中学校では今年度，手探りの状態で特別の教科「道徳」がスタートした。研修の中で，指導案の作成の仕方や，協働的な学習の仕方など，様々な内容を伝えた。しかし，学校全体として配慮が必要な生徒に対してどのように道徳の指導をすべきかという方向性が見えていなかった。個に応じた指導に必要な観点を来年度以降持つ必要性を感じることができた。



特別支援学級での道徳